

対面でお会いしましょう

濱田龍義*

日本数式処理学会会長

この度、第16期の会長を務めることになりました。皆様、どうかよろしく願いいたします。

原稿執筆時は新型コロナウイルス感染症の第8波の最中ですが、会員の皆様におかれましては、お体に気をつけて日々をお過ごしいただければと心より願っています。新型コロナウイルス感染症をきっかけに急遽始まったオンライン教育への対応により、数式処理の教育利用についての課題を再認識された方も多かったのではないのでしょうか。例えば、誰にでも利用可能な数式入力方法については、会員の皆様によるものも含め、現在も様々な提案、研究が行われています。また、自動作題や解答、採点システムなど、これまで以上に研究の発展が期待されています。もちろん、このような数式処理の応用領域を考える上でも、理論や実装についての研究の継続が欠かせません。本原稿を執筆するにあたって、過去の記事を読み直し、これまでの数式処理研究の歴史を振り返ってみても、どの一つも欠かせない存在だということを改めて感じます。

さて、オンラインでの研究交流については、遠く離れた外国の研究者とリアルタイムに話をできるという良さもありますが、雑多な情報交流を行うことが難しいという一面もあります。幸い、徐々にではありますが、対面での研究会を開催し、直接、顔と顔を合わせて研究交流を結ぶことができるようになってきました。

昨年6月には山陽小野田市立山口東京理科大学において、対面では3年ぶりとなる第31回大会を開催することができました。対面とオンラインのハイブリッドにより実施され、準備に奔走していただいた大会実行委員長の亀田真澄先生を始めとする皆様には心より感謝申し上げます。私も現地に赴き大会に参加していたのですが、実際に対面で顔を合わせて研究交流を結ぶことは、何にも代えがたいことだと改めて感じました。一方で、オンラインで参加された方々にとっても、十分に意義を感じることができた大会であったと思います。

本学会は、数式処理の進歩・発展・普及を図ることを目的として1992年4月に設立されました。すでに30周年を迎えていますが、このような状況下ですので、今は地道に一步ずつ環境を再び整えていく時期と捉えています。そのためにも、会員の皆様の存在は欠かせません。今後開催される分科会や大会において、皆様と直接お会いして研究交流を結ぶことを楽しみにしております。

*hamada.tatsuyoshi@nihon-u.ac.jp